

課 題	継続 新規	継 統	経 常	担 当	開 発 箇 所	期 間	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額																			
	目標との 連 関		1-ウ						造林課	長崎	自61年度 至70年度	物件費				千円 0																
目的	イヌマキの人工更新法 若伐天然下種更新地において、イヌマキを植栽し、天然有用広葉樹導入と 組合せ、用材林としての育成方法を確立する。								役務費				0																			
									人件費		3人	6,000	18																			
									計				18																			
全 体 計 画		実 施 経 過				当 年 度 分																										
						実 施 計 画		実 施 結 果			評 価 お よ び 普 及 計 画																					
<p>1. 試験地設定</p> <p>(1) 苗木購入</p> <p>(2) 林地植付</p> <p>2. 活着調査</p> <p>3. 生長量調査</p> <p>4. 保育方法の検討及び 実施</p>		<p>1. 試験地設定(昭和61年3月)</p> <p>(1) 場所 不助山国有林67イイ林班</p> <p>(2) 面積 0.10 ha</p> <p>(3) 本数 200本</p> <p>2. 保育 坪刈実施</p> <p>3. 調査事項</p> <p>(1) 活着調査</p> <p>(2) 生長量調査</p>				<p>1. 保育</p> <p>(1) 坪刈及び不良樹木刈払い</p> <p>(2) 有用広葉樹萌芽整理 (本数調整)</p> <p>2. 調査事項</p> <p>(1) 生長量調査</p>			<p>1. 生長量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>苗 長 cm</th> <th>根元径 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植付時</td> <td>41.70</td> <td>6.12</td> </tr> <tr> <td>61年度</td> <td>51.40</td> <td>6.42</td> </tr> <tr> <td>62年度</td> <td>62.12</td> <td>7.43</td> </tr> <tr> <td>63年度</td> <td>102.29</td> <td>10.25</td> </tr> <tr> <td>伸長量</td> <td>60.59</td> <td>4.13</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 保育</p> <p>(1) 坪刈</p> <p>(2) 萌芽整理(本数調整)</p>			区分	苗 長 cm	根元径 mm	植付時	41.70	6.12	61年度	51.40	6.42	62年度	62.12	7.43	63年度	102.29	10.25	伸長量	60.59	4.13			
区分	苗 長 cm	根元径 mm																														
植付時	41.70	6.12																														
61年度	51.40	6.42																														
62年度	62.12	7.43																														
63年度	102.29	10.25																														
伸長量	60.59	4.13																														

(様式4)〜1

課 題	イヌマキの人工更新法																								
<p>1. 目的</p> <p>皆伐天然下種更新地においてイヌマキを植栽し天然有用広葉樹導入と組合せ用材林としての育成方法を確立する。</p> <p>2. 試験地</p> <p>(1) 設定前の林況 天然生アカマツが20%混交する30年生広葉樹天然林で昭和59年度皆伐した跡地である。</p> <p>(2) 場所 石助山国有林67いん林小班</p> <p>(3) 面積 0.10 ha</p> <p>(4) 設定 昭和61年3月12日</p> <p>(5) 設定要領 イヌマキ2年生苗木200本を一部地拵のうえ丁寧植とした。</p> <p>3. 調査結果</p> <p>調査プロットの苗長と根元径について計測し194本の平均値を表-1に示した。</p>	<p>表-1 調査結果表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>植付時</th> <th>61年度</th> <th>62年度</th> <th>63年度</th> <th>伸長量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苗長^{cm}</td> <td>41.70</td> <td>51.40</td> <td>62.12</td> <td>102.29</td> <td>60.59</td> </tr> <tr> <td>根元径^{mm}</td> <td>6.12</td> <td>6.42</td> <td>7.43</td> <td>10.25</td> <td>4.13</td> </tr> <tr> <td>枯損</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 保 育</p> <p>植栽木周囲の評刈をおこなった。 有用広葉樹萌芽の本数調整も一部手直し程度で終了した。</p>	区 分	植付時	61年度	62年度	63年度	伸長量	苗長 ^{cm}	41.70	51.40	62.12	102.29	60.59	根元径 ^{mm}	6.12	6.42	7.43	10.25	4.13	枯損	0	2	4	0	/
区 分	植付時	61年度	62年度	63年度	伸長量																				
苗長 ^{cm}	41.70	51.40	62.12	102.29	60.59																				
根元径 ^{mm}	6.12	6.42	7.43	10.25	4.13																				
枯損	0	2	4	0	/																				

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状況写真は別途整理する

平成
~~昭和~~元 年度技術開発実施 ~~計画~~ 報告書

様式 2

長崎営林署

課 題	継続 新規	継続	経常 特別 目標との 関連	別 経 常 1-ウ	担 当	開 発 箇 所	期 間	自 61 年度 至 70 年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
											千円				
						造林課	長崎			造林費					
										役務費					
										人件費		人			
										計					
目的		<p>皆伐天然下種更新地において、イヌマキを植栽し、天然有用広葉樹導入と組合せ、用材林としての育成方法を確立する。</p>													
全体計画		実施経過				当年度分									
						実施計画				実施結果			評価および普及計画		
<p>1. 試験地設定 (1) 苗木購入 (2) 林地植付</p> <p>2. 活着調査</p> <p>3. 生長量調査</p> <p>4. 保育方法の検討及び実施</p>		<p>1. 試験地設定 (1) 設定年月 昭和61年3月 (2) 場所 万助山国有林 67㍓, 林小班 (3) 面積 0.10 ha (4) 本数 200本</p> <p>2. 保育 坪刈実施</p> <p>2. 調査事項 (1) 活着調査 (2) 生長量調査</p>				<p>1. 保育</p> <p>2. 調査事項 (1) 生長量調査</p>				<p>1. 保育 坪刈実施</p> <p>2. 調査事項 (1) 生長量調査</p>					

試験経過記録

区分 任意

長崎 営林署

(様式4)

課題

イヌマキの人工更新法

1. 目的

皆伐天然下種更新地においてイヌマキを植栽し天然有用広葉樹導入と組合せ用材林としての育成方法を確立する。

2. 試験地

(1) 設定前の林況

天然生アカマツが20%混交する30年生広葉樹天然林で昭和59年度皆伐した跡地である。

(2) 場所 石助山国有林67イシ林小班

(3) 面積 0.10 ha

(4) 設定 昭和61年3月12日

(5) 設定要領 イヌマキ2年生苗木200本と一部地拵のウエノ等植とした。

3. 調査結果

調査プロットの苗長と根元径について計測し194本の平均値を表-1に示した。

表-1 調査結果表

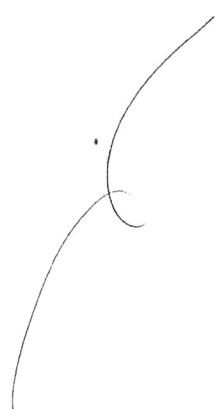
区分	植付時	61年	62年	63年	元年	伸長量
苗長	41.7	51.4	62.12	102.29	134.9	cm 93.2
根元径	6.12	6.42	7.42	10.25	12.96	mm 7.84
枯損	0	2	3	0	0	

4. 保育

植栽木周囲の坪刈をおこなった。

様式2

平成2年 技術開発実施報告・計画

課題	イヌマキの人工更新法		継続・新規	担当	造林課	開発所	長崎
目的	皆伐天然下種更新地において、イヌマキを植栽し、天然有用広葉樹導入と組合せ、用材林としての育成方法を確立する。		指示・自主 任意				
年度別実施経過			又年度 実施報告	〇年度 実施計画		備考 (評価及び普及計画等)	
			<p>1. 保育 坪刈実施 (0.10ha)</p> <p>2. 調査事項 生長量調査</p> <p>造林費 194円 事業費 (技術開発) 0千円</p>	<p>1. 保育 坪刈 0.10 ha</p> <p>2. 調査事項 生長量調査</p> <p>造林費 184円 事業費 (技術開発) 0千円</p>			

試験経過記録

区分 任意

長崎 営林署

(様式4)

課題

イヌマキの人工更新法

1. 目的

皆伐天然下種更新地においてイヌマキを植栽し天然有用広葉樹導入と組合せ用材林としての育成方法を確立する。

2. 試験地

(1) 設定前の林況

天然生アカマツが20%混交する30年生広葉樹天然林で昭和59年度皆伐した跡地である。

(2) 場所 石助山国有林67㍍林小荘

(3) 面積 0.10 ha

(4) 設定 昭和61年3月12日

(5) 設定要領 イヌマキ2年生苗木200本と一部地筋のうなぎ等植とした。

3. 調査結果

調査プロットの苗長と根元径について計測し195本の平均値を表-1に示した。

表-1 調査結果表

区分	植付時	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度	伸長量
苗長	41.7	51.4	62.1	102.3	134.9	168.2	126.5 cm
根元径	6.12	6.42	7.43	10.25	13.96	21.04	14.92 mm
枯損	0	2	3	0	0	5	—

4. 保育

植栽木周囲の坪刈をおこなった。

5. その他

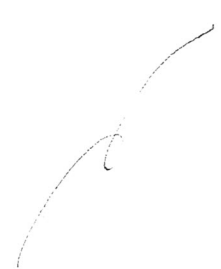
平成2年度業務研究発表会にて第1報発表。

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

平成3年 技術開発実施報告

様式 2

長崎 営林署

課題		イヌマキの人工更新法			
<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規	<input type="radio"/> 指示 <input checked="" type="radio"/> 自主 <input type="radio"/> 任意	担当	造林課	開発箇所	石助山 67.11
年度別実施経過			3年度 実施報告		
			1. 保育 坪刈 (0.10ha) 実施 2. 生長量調査		
			(This cell is empty, representing the continuation of the implementation progress for the following year.)		